

開催地名：埼玉県東松山市	
開催日時	令和元年8月31日（土） 10：00～11：00
開催場所	比企広域消防本部 講堂
語り部	島田 福男 （宮城県仙台市）
参加者	市内自治会及び自主防災組織の役員 約60名
開催経緯	<p>当市にて発災が予想される災害のうち、最も可能性が高いと考えられるのは水害であるが、幸いにも大きな被害には見舞われていない。そのため、水害を含む自然災害に対する備えの意識は決して高くなく、個々の意識を高めていく必要を感じている。また、避難行動要支援者の避難に関し、実際に誰が支援するかについて、地域も高齢化する中、なかなか見通しが見えない。今回東日本大震災を経験された自主防災組織のリーダーに、このあたりのヒントをいただけるお話を伺いたい。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>東日本大震災の災害復旧、復興工事もだいぶ進み、特に仙台市では、遅れていた津波の被害を受けた沿岸部もだいぶ整備された。あのような大災害は、起きてからでは手の打ちようがなく、対応がなかなか難しい。やはり、起きる前に皆で話し合い、日頃から十分に備えておくことが一番大事である。「平時にできないことは災害時にはなおできない」と言うが、まさにその通りだと思う。</p> <p>（２）仙台市の被害状況</p> <p>最も被害の大きかった東北の3県の内、宮城県で亡くなった方が9,541名、行方不明者が1,222名。岩手県では亡くなった方が4,674名、行方不明者が1,115名。福島県で亡くなった方が1,614名、行方不明者が196名。全国的に、亡くなった方が15,896名、行方不明者が2,537名。これは、先日地元紙に載った地震のデータによるものである。宮城県の被害が一番大きかったが、犠牲になった方の80パーセントは津波による被害に遭った方である。そして、そのうちの90パーセントは車に乗っていて犠牲になった方である。仙台市は、仙台より南は仙台平野で沿岸部からずっと平坦地が続く。津波はとどまるところを知らず、内陸部5キロメートル地点まで押し寄せた。また、仙台より北は三陸のリアス式海岸で海辺まで山が入り組んでいる。そのため、高い所に逃げようと思えば逃げることはできたのである。しかし、あのような大きな津波が来ることはないと思いき、油断して被害に遭われた。訓練のときは徒歩で避難するが、いざ地震が起きたら慌てて車で逃げてしまい、犠牲になったと言える。</p> <p>（３）避難所の状況</p> <p>避難所は、体育館はおろか、校庭まで人であふれ身動きの取れない状態であった。原因は、帰宅困難者である。指定避難所だけでなく、公的な施設である県庁、市役</p>

所、区役所などに人が押し寄せて、中に入り切れなくなった人が道路まであふれてしまった。そのため、地域住民と企業、自治体三者で話し合いをし、災害が起きた場合は、すぐに帰さないで会社にとどめておくなどの協力を企業に求めた。今は、企業において防災教育も盛んに行われている。

#### (4) 自主防組織の立ち上げ

平成 14 年に連合町内会の会長になった時、連合町内会に自主防災組織を結成した。そして、平成 22 年 4 月に、地域の 50 団体で、川平地区防災対策連絡協議会を設置した。昭和 40 年代の大規模住宅団地開発により形成された川平地区は急速な高齢化が進んでいた。300 万円の予算を使い、防災の資機材を購入した。毛布や発電機、投光器、リヤカーなど、一通りの物を用意すると、1つの倉庫で約 150 万円かかる。震災後はこれでは足りないという意見があり、もう 150 万円出して、現在は 3つの倉庫に 450 万円分を備蓄している。この他に、このような研修会や講習会において、主に HUG（避難所運営ゲーム）、DIG（災害図上訓練）、クロスロード（分かれ道）という 3つのカードゲームを行った。平成 23 年 2 月には大体の災害対応計画案が完成したので、ワークショップを開いて、地域住民に説明をした。

#### (5) 震災後の自主防災組織の見直し

仙台市では震災後、地域防災計画を見直した。それまでの防災計画は公助を中心とした、どちらかというと市の職員向けのものであった。しかし、公助では限界があり、市民力、地域力、これを全面に出した自助、共助を生かさないともたない。自助、共助、公助の共同による対策が一番望ましいため、計画を練り直した。当然、避難所運営マニュアルも見直した。それまでのマニュアルは、仙台市一律であり、193 ある指定避難所全部が同じであった。しかし、沿岸部は津波の被害、中心部は帰宅困難者、私達のような住宅団地は地滑り、地割れ等、被害状況が違うのに、一律のマニュアルでは到底役に立たないため、193 の指定避難所ごとに地域版避難所運営マニュアルを作ることになった。今はそれに従って避難所の運営訓練などを実施している。



開催地より

被災体験に基づく貴重な講演内容について大変興味深くお話を伺った。防災意識の啓発に役立てていきたいと思う。